

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を家訓に表している。 家訓「あるがままに、楽しく、ゆったりと」		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「住み慣れた地域で健やかに暮らせる老後を」実践しながら、日々のケアに取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	常に家族との会話を交わし家族と共に「安心して暮らせる老後」を実践している。地域においても、地域の問題や会に出席し機会あるごとに、地域での活動に参加している。	○	地域での存在は確立できている。今後は、GHが地域においてどのように機能していくのかを地域の方に理解して頂けるように努めていく。
2.地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	周辺には畑もあり 散歩しながら気軽に話ができて、親しくお付き合いできている。また、管理者も区の総会に出席し日々近隣の方との話しもできている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くに筑紫野市文化センターがあり 催しがあれば気軽に声を掛けて頂いて、入居者と一緒に参加している。公民館を通じて地元の人たちと交流できている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的にカンファレンスの場でスタッフ全員話し合っている。また、近くの大型ショッピングモール建設にあたり、地域の話し合い、総会などに参加し、地域貢献できる事を話し合っている。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を通して、スタッフ全員が検討し改善点あれば具体的に検討し行動している。また、外部からの評価を大切にカンファレンスの場で話し合い今後につなげている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「さわやかテラス」での日々の暮らしと現状を報告し、他職種からの貴重な意見を反映し日々のケアに取り組んでいる。また、家族からの意見も出て地域・包括・市も理解して頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護関係は勿論であるが、大きく福祉を考え、地域での取り組みを考えながら、地域の方が最後まで暮らせる町づくりを目指している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	「さわやかテラス」の代表が権利擁護や成年後見人のボランティア団体である、NPO法人「高齢者・障害者安心サポートネット」の理事を務めており、職員は認知症高齢者を護る勉強を行なっている。そして、実際に職員の一人が成年後見人のボランティアを行なっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスにおいて、定期的に研修を行なっている。身体拘束・言葉の拘束・薬の拘束等があるてはならないことであり研修を重ねている。また、事例を通して職員ひとりひとりが考える機会を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだ後、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明・契約内容を書面で示しながら疑問点がないよう十分説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの申し出は日々の会話の中や表情などから職員が察知するようにしている。また、家族からの意見も聞き取り、意見や要望は記録に残し都度介護ケアに反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らし方や健康状態は、家族来訪時または電話で適宜行なっている。また、毎日の記録を見て頂き家族の不安や心配がないようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から意見、不満、苦情が言いやすいように家族への連絡や報告はまめに行なっている。行政窓口もお知らせしており、家族が気安く意見要望が言えるようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	よりよいケアを目指しており、職員から意見提案があれば代表や責任者に随時話が出来る体制にある。子育て支援にも力を入れており意見提案は有意義に反映されている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	365日24時間ローテーション勤務を組んでいる。入居者の状態・状況に柔軟に対応できる職員の確保は問題なくできている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとって、なじみの職員が一番であるので、その配慮のもと異動を行なっている。止むを得ない離職においても最小限に抑える努力をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19 ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢に問わず採用している。未経験者も採用の対象としている。職員の年代も20代30代40代50代にわたっている。また、聴力障害があっても気配り目配りができ、入居者の立場に立ってケアできていれば、採用している。職員は地域活動や自己研鑽を自由におこなっている。		
20 ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権についての教育はカンファレンスの場で折に触れ行なっている。		
21 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	4つの事業所を一つと考えた教育を年間スケジュールを組み職員の段階に即して育成研修を行なっている。経験年数に応じたグループ研修・リーダー研修・パート研修等行なっている。また、外部講習・講演会なども勤務ローテーションに組み入れ業務として積極的に参加している。		
22 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会には常に参加し地域のお施設との交流を行い、サービス向上に努めている。また、GH協議会主催の文化祭にも積極的に参加している。		
23 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	代表は管理者や職員とのコミュニケーションを大切に、管理者もまた職員との対話を重視している。職員はストレスを発散できる状況にある。		
24 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力や実績はカンファレンスの場で職員に知らしめている。また、資質が伴えばリーダー・補佐に抜擢する人事制度があり、職員が向上心を持って勤務できる職場である。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
26	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
27	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
28	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	認知症ケアは特に家族と共にしていくことが、本人にとって「あるがままに、楽しく、ゆったりと」暮らしていくことにつながってくる。家族と共に、が大切である。		
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族があつての支援・ケアであることを念頭に、認知症であるからこそ、日頃からの本人の表情・言動を家族に伝えながら、本人の代弁者となり本人と家族の絆がもっと深まるように務めている。		
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう 支援に努めている	本人の好みの生活用品は入居時に持ち込みして頂いている。希望される場所へのドライブや馴染みの人の来訪も歓迎している。家族の協力のもと自由に暮らされている。		
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	「さわやかテラス」スタッフの心得で「さびげない気配り・目配り・心配り」を掲げ実践している。孤立や入居者同士の仲たがいの場合も職員がさびげなくその場の雰囲気や和ませ入居者同士の仲を取り持っている。		
34	サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方(近隣の方は)も家族と一緒に立ち寄られたり年賀状で近況を知らせたりと関係がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で、その方の思い・希望を把握するように努めている。困難な場合は家族との話し合いを行っている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それまでの経過は、全職員が把握できるようにファイリングしており、いつでも見れるようにしている。また、常にスタッフ間で話し共有している。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1時間毎本人の記録を記入し、職員同士の連絡・相談を密に行っている。申し送りをして常に現状把握している。特に発せられた言葉の中には、(ふと)話された事の中にも重要な事がらが多い。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・主治医の意見を反映させた計画書を作成している。計画書は家族に提示している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1か月に1度見直しをしている。入居者の状態に変化があった場合や対応できていないことがあった時は、チームリーダーが、責任者や家族に相談し、現状に即した計画を見直している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1時間毎入居者の状況を記録しており、ケアプランについて書くことは青記入。医療面については赤記入と分けている。そのため、誰が見ても分かりやすく、見直しやすくなっている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームは入居が基本であるが、家族の都合で外泊されることもある。(自由である)ドライブやショッピングまた外食も希望通り、都度職員で対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	散歩の休憩所として文化会館を利用したり、月2回の消防訓練には訓練を通して入居者と消防士とのふれあいもある。民生委員や区長、地域包括支援センターを交えた地域運営推進協議会などで地域資源と協議している。	○	警察や消防の方に気軽に来ていただき入居者の方と交流を持っていただけるように働きかけたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームは入居生活が基本であり、介護保険で利用できる他のサービスを利用されることまないが、好きな趣味をされたり、歌や散歩など自由に「あるがままに、楽しく、ゆったり」と毎日を過ごしている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2カ月に1度の地域運営推進協議会の席上で地域包括支援センターと話し合いの機会があり権利擁護やケアマネジメント等について協働している。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は本人と家族の希望を大切に、職員が付き添って受診している。(家族が付き添うこともある。家族の意向とおり対応している。)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医と連携をとりながら認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援体制は整っている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	準看護師が介護スタッフとして常駐しており且つ、主治医は24時間365日体制をとっているため、医師・看護師からの支援は十分に出来ている。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医が病院関係者と常に連絡や情報交換が出来る関係にあり、主治医自身も早期退院の姿勢を表明している。入院時より毎日病院に行き状況把握に努め家族とも連絡ノートを用いて早期退院に向けての意思の疎通を図っている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望に応じて見取りを行っている。主治医も地域医療に力を入れており、家族と主治医と職員の3者で終末期に対応している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記に記載のように、終末期ケアは、開所（平成13年4月）以来6人に見取りをさせて頂いた。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住する際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居・退居に関わらず環境が変わるということは、本人にとって大変不安なことであることを十分認識している。そのため、入居・退居時は家族とともにダメージ防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりのプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃よりスタッフ間との言葉使いにも気をつけている。記録・個人情報は守秘義務であることを自覚している。	
53	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援をしている	常に入居者に目を配り、少しの訴えも落とさず傾聴の姿勢で行っている。職員の意見を言うのではなく、入居者本人が納得いくまで、話をし生活して頂いている。	
54	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の望まれる事を優先し、お一人お一人のペースを大切に支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は訪問理美容を利用しており、顔なじみの関係になっているため、入居者も安心している。化粧品や衣類などの購入は一緒に出掛けたり、家族に好まれる物を持参して頂いている。また、職員は身だしなみが乱れてないか常に気配りしている。	○ 4月から「どんTAC」の方々によるビューティーケアを取り入れている。今後も、入居者の方々がおしゃれを楽しみながら普段でも支援していけるようにしていく。
56	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力を見極め、その方にとって無理のないよう準備や片付けを一緒に行っている。毎食入居者一人一人の食事形態に合わせた食事を提供し、共に職員は食事している。	
57	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好の抑制はしていないが、体調面等の問題がある場合は主事医・家族と相談し望まれる支援をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1人1人の排泄間隔・排泄のサインを把握し支援している。常時オムツの方も状態にあわせてトイレに座って排泄はを促している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人が入浴したいと言われれば時間帯を気にせず入浴して頂いている。入浴拒否がある場合は、職員が工夫した声掛けを行い気持ちよく入浴して頂いている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人一人の1日の習慣を大切に過ごして頂いている。夜間はぐっすり休めるように物音はなるべく立てず、休みたい時に休んで頂いている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かし、本人の持っている力を自由に表現出来る様に支援している。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が安心できるように持って頂き、どこに置いたか不安にならない様にさりげなくお金の場所を把握し、訴えに対応できるようにしている。また、買いたい物や欲しいものがあれば、一緒に買いにいったり買ってきたりしている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外気浴・ドライブなどで季節の移り変わりを感じて頂いている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	行事係りが計画を立て、季節を感じて頂けるように、花見・遠出など行っている。なるべく家族参加を呼びかけ参加して頂いている。	○	敬老会においては、一年間の行事内容をビデオに録画したものを入居者・家族・地域の方に見ていただくように計画している。地域の方を招待することでGHへの理解を得たいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎはいつでも行っている。手紙やハガキを出したいと希望があれば、その方の能力に応じてサポートするようにしている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪の時間は制限なく来られている。リビング居室で過ごされている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解しており、身体拘束だけでなく、言葉の拘束においても十分に気をつけている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関・居室には鍵をかけず、外に出たい時はいつでも外に出て頂き、出入りを自由に行っている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	1時間に1回は、見回りを行い、様子を記録に残している。外に出た場合は、そっと付き添いを行なっている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品はさず、職員が保管・管理をしながら、入居者が使用する場合は見守りを行いながら、臨機応変に対応している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年2回の防災訓練を入居者と共に行っている。毎日の中で「ヒヤリハット」したときは記録に残し、事故防止への意識を高めている。	○	近所に大型ショッピングモールが出来るため、周囲の環境の変化が考えられる。(人・車の増加・大気汚染・騒音・交通状況の変化)それにとまなぐ危険防止の対策。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署主催の救急対応の講習を定期的に受け、応急初期対応の訓練を積んでいる。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	消防署・入居者・スタッフの合同練習を年2回実施している。避難は夜間想定している。地域の方への日頃より協力を得られる様働きかけしている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	1人1人のリスクについては家族に説明し身体状況の変化においては即対応し説明話し合いをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている	毎朝、バイタル測定をし、体調の変化など記録に赤で記入し、異変あれば、主治医に速やかに報告し対応に結びつけている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用・用法用量について理解しており、指示通り服薬出来る様に支援している。症状の変化がある時など主治医に連絡し意見・アドバイスを受け、必要であれば受診している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを用い、便秘がちな方はスムーズに排便ができるよう配慮している。薬だけに頼らず、便秘に効く食材をすすめたり、水分補給を心がけている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの声掛けを行っている。一人で困難な方は、一部支援を行っている。お茶でのうがいをして頂いている。また、月に2回訪問歯科で往診を受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを毎日行い、摂取量に応じて対応している。水分量においても、皮膚・唇の状態・トイレの回数・発熱など観察し、入居者の状態に応じた対応を行っている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者・職員の手洗い・うがいの励行。手指のアルティ消毒を徹底している。インフルエンザ予防接種(入居者・職員)の実施。他感染症においても、対応を全職員が周知し実行している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防として、台所・調理器具は清潔保持の為に毎日消毒している。食材の購入は、その日使う分を毎日購入している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ごく一般的な家族と同じような玄関の作りであり、入居者の方は気軽に外へ出ている。近所の方も採れた野菜など持ってきたりしている。	○	玄関周辺に、季節の花々など植え、明るい空間作りをしていきたい。二階の玄関に家訓の表示・写真などを飾って玄関の雰囲気作りを行っていく。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせる様に空間・採光・テレビの音量など確認調整している。また、花を飾ったり行事の飾りなど季節感を出す工夫した飾りつけをしている。(雛飾り七夕・クリスマスなど)		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者同士がテレビ・ビデオを見て歌を歌われ事がある。独りでも、他の方でも過ごせるスペースがある。誕生日には皆でお祝いをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族と相談し、使い慣れた物・家族の写真・思い出の品など持ってきて頂いている。本人が過ごしやすい様に心がけている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日1回居室の掃除を行い、清潔を保ち、換気も行っている。温度は入居者1人1人に合わせて調整をしてこまめに管理している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・廊下・トイレに手すりを設置し、入居者の高さに合わせている。段差も利用し、自立した生活支援を行っている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者1人1人の認知レベルを理解し、見守り・さげない声掛けを行い、入居者の自信をなくさないよう配慮している。混乱時は発言・表情を察し、寄り添い声掛けをしている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるよう活かしている	敷地内に畑を所有している。職員が職員・家族が野菜を栽培し収穫時には入居者が収穫されている。秋には保育園と共に芋ほりを楽しんでいる。畑にて花も育てており、玄関・リビングに飾っている。		

.サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の 2/ 3 くらいの
			利用者の 1/ 3 くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に 1 回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の 2/ 3 くらいと
			家族の 1/ 3 くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム さわやかテラス2階

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
		○	数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くない
100	職員は、活き活きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の 2/3 くらいが
			職員の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の 2/3 くらいが
			家族等の 1/3 くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「あるがままに、楽しく、ゆったりと」を実践している。開放的な生活を送って頂くように開錠し、いつでも外にでれるようにしている。家族との話しの中で最期までの話し合いを常に行っている。本人が望む死を家族・職員・主治医とも話しながら、最期までその人らしく暮らして頂けるように支援している。なじみの関係の中にも本人の望む暮らしを実践し、ケアプランに沿っての対応をおこなっている。